

(様式1)

令和5・6・7年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(2年次)【中学校】

【学校名等】

学校名	宮津市立栗田中学校							校長名	中村 敏章
学 年	1 年	2 年	3 年				特別支援	生徒数	3 0 名
学級数	1	1	1				1		
事業担当教員名	小笠原 智美								
① 中学校区で目指す子ども像	栗田学院 目指す子ども像 (1) 夢の実現に向け 自ら学ぶ子ども (2) お互いが認め合える 心豊かな子ども (3) 健康で元気に生活できる子ども (4) ふるさとを誇り 地域に貢献できる子ども								
② 目指す子ども像	・授業において自分の考えをもった上でそれを発信し、他者の意見も受け入れられる生徒 ・挨拶や他者とのコミュニケーションを大切にでき、人間関係を築く力を身に付けた生徒 ・学院の取組等を通して、自ら考え行動する力や、学院のリーダーとして目的意識をもって行動する力を身に付けた生徒 ・ふるさとみやぶ学を中心とした地域の方々との交流を通して、地域への理解と誇りをもてる生徒								
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	<現状> ・やるべきことに真面目に取り組めるので、基礎・基本の学力が定着している。 ・授業における教師主導の学習場面では真面目に取り組むことができる。 ・与えられた学習等の課題をしっかりとやりきれる生徒が多い。 ・自ら分からないことを調べて、学び取ろうという意欲の高まりが見られる生徒もいる。 ・地域や学校への安心感や愛着があり、落ち着いて学校生活、日常生活を送ることができる。 <課題> ・自分の考え、意見等があっても、自分の言葉で伝える自信のなさや間違えることへの不安等が強く、発表などに消極的である。 ・授業における教師主導の学習場面では真面目に取り組むことができるが、活用的な学習では、挑戦しようとする意欲をもてない生徒もみられ、二極化する傾向がある。 ・教師の説明や指示等に安心感をもち、学習が受け身となっている面が多く見られる。 ・初めての環境や知らない場面への不安感をもつ生徒もおり、臨機応変な対応や、即興的な対応を苦手とする面もある。 ・身近で当たり前にある地域に対し、興味・関心が比較的弱く、ふるさとや地域の環境、歴史等の認識が弱い面も見られる。 ・小学校入学時から変化のない人間関係もあり、新たな関係性を築き、対話しようとする意識も低く、仲間との意見交換や関係性を作ったりすることが苦手である。								

④ 目指す子ども像に達するための仮説	・単元指導計画と単元を通して身に付ける力を明示することで、学び取る意欲や、学習の振り返りの質が高まり、学習への自己調整力につながる。 ・毎時間の学びのゴールを設定することで、自己決定力が身に付き、学習の主体者となることで学力が向上する。（認知能力の高まり） ・各教科の特性や単元の学習内容に応じて、生徒が主体となって学習に取り組める学習形態を工夫することで、主体的に学び取る姿勢が芽生える。よって挑戦意欲が高まり、自分らしさが発揮できるようになる。（非認知能力の高まり） ・学年内外問わず、自分の思いや考えを伝える場の設定や、テーマに応じて感じたことや思うことを交流する中で、違いを知り認め合う機会をもつことで、自己開示することの抵抗感が減り、コミュニケーション能力が身に付く。
---------------------------	---

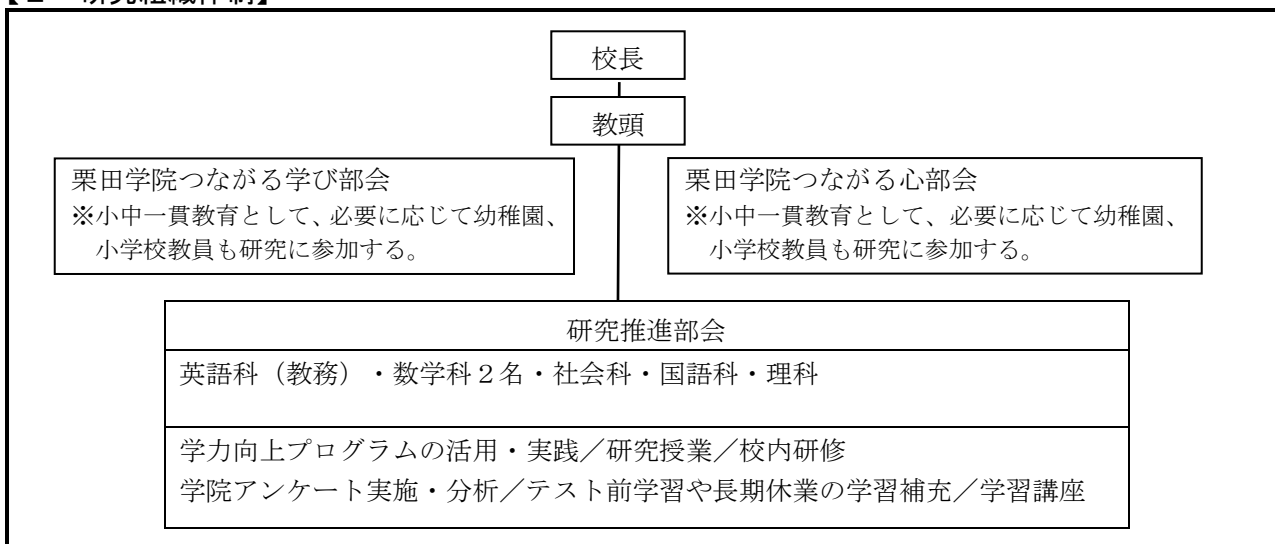
令和6年5月1日現在

【1 研究主題】

主体性・挑戦意欲の高まる指導の研究

～子どもが学び取る授業づくり・コミュニケーション能力の向上を目指して～

【2 研究組織体制】



【3 具体的な取組内容】

- 1 単元指導計画に基づいた単元を通して身に付ける力の明示
単元導入時に学習後のゴールをイメージさせ、目的と意思をもって学ばせる。毎時間の学習内容は教師から提示しつつ、毎時間生徒個々が「学びの目標」を設定し、意思決定と学習への意欲向上を図る。また、1時間の学びについて文字言語で書いて振り返りを行うことによって、自身の学習を見つめる機会を確保する。そのことで学習の手応えを感じたり、復習の必要性を感じたりと学習への自己調整力を高める。
- 2 学び方の工夫
教科の特性や単元の学習内容に応じて、一斉指導での学び、協働的な学び（ペアやグループ学習等）、個別最適な学び（自由進度学習等）に取り組み、生徒自身が学び取る意識を醸成する。協働的な学びについては、不安感をもたずに取り組み、必然的に発話したりする環境を設定する。
- 3 対人スキルの向上と認知機能強化のための TALK/SKILL Time の隔週設定
 - (1) TALK Time
身近なテーマや社会的な話題等について、考えを交流するやりとりを楽しんだり、自分の考えや感じたことを言葉に出したり、他者の考えや感じ方を受け止めて反応したりする中で、コミュニケーション能力を育成する。
 - (2) SKILL Time
言語情報や視覚的情報等をもとにクイズ形式等の問題を解くことで、論理的思考力や情報処理能力、想像力、記憶力、判断力等を育成する。
 - (3) 週末課題「オピニオンレポート」
新聞の投書を読んで感じたことや自分の意見を文章で表現させることで、多くの考え方に触れ、そこから自分自身を見つめたり、新たな考え方を取り込んだりする機会を確保する。
- 4 学院アンケートの活用
学院として学期に1回アンケートを実施し、1～3の実践が生徒の認知能力、非認知能力の向上に変化をもたらしているのか、主体性・挑戦意欲の向上につながっているのかを検証する。
- 5 校内研修の充実
個別最適な学びや協働的な学びの実践例や理論の研修、そして個人の学びにつなげるための授業改善に向けた研究を行う。また、学力調査や学院アンケートの結果について分析し、課題解決に向けたアプローチを検証する。

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
全学年	33	目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。	自己調整	
全学年	53	失敗をおそれず、前向きに取り組むほうだ。	チャレンジ精神	
全学年	57	自分にはよいところがあると思う。	自分らしさの発揮	
全学年	73	授業で新しく学習したことをこれまで学習したものと結びつけて理解したり、話合いで活かしたりしている。	精緻化	
全学年	74	ほかの教科の授業で学んだことであっても、教科に関係なく授業中の活動で活かしている。	精緻化	

* 5・6の分析の項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

具体的な指導・支援方法<1年生>

○目指すゴールを明確にした上で、興味が持てる授業や取組の実践

【集団】

- ⇒役割を明確にした協働的な学び、互いの成果物の相互評価の場を設定し、自己肯定感を高める。
- ⇒学年や学校を越えた関わりの場や機会を設ける。

【個】

- ⇒視覚的な支援すべきことや手順の理解を促し、計画的に取り組めるようにする。
- ⇒必要に応じて声をかけたり、適宜面談を実施したりして、思いや状況の把握をする。

具体的な指導・支援方法<2年生>

○チャレンジ精神や自信を育む授業や取組の実践

【集団】

- ⇒自由進度学習やパフォーマンス課題の工夫など、子どもたちに学ぶ方法やゴールを委ねる授業を行う。
- ⇒学習ペアやグルーピングを工夫し、新鮮さや意欲を高め、学びの価値や過程の楽しさを実感できるようにする。

【個】

- ⇒自主勉強の機会を設定し、自分の弱みや苦手を踏まえた学習ができる力を付ける。
- ⇒非認知能力が高い生徒の学力につながるような学習支援を行う。

具体的な指導・支援方法<3年生>

○自分と他者の学びや違いを絡めて深く学ぶ授業や取組の実践

【集団】

- ⇒自分の意見を持った上で、他者との意見を述べ合って考えを深め、楽しいだけで終わらないペアやグループワークを積み重ねる。
- ⇒個々がもっている、自分の意見を工夫して伝える能力や意欲を活かし、プレゼンテーションを活用した授業展開を適宜行う。

【個】

- ⇒意欲や学習量があっても学力が伸びない生徒への個別の手立てを、声掛けや面談等で丁寧に行う。
- ⇒非認知能力面の低さが気になる生徒には、個別で目標を確認してできたら褒めるなどのきめ細かな支援をしつつ、取組の大小に関わらずリーダー経験を積ませ、実行力と自信を付ける。

【8 仮説の修正】

- ・単元指導計画と単元を通して身に付ける力やパフォーマンス課題等を明示し、興味関心を高めた上で指導を行うことで、学び取る意欲や、学習の振り返りの質を高め、学習への自己調整力につなげる。
- ・毎時間または単元を通した学びのゴールを設定することで、自己決定力と計画性が身に付き、学習の主体者となることで学力と計画性が向上する。（認知能力の高まり）
- ・各教科の特性や単元の学習内容に応じて、生徒が主体となって学習に取り組める学習形態（個別・ペア・グループ・他校との交流等）を工夫することで、主体的に学び取る姿勢が芽生える。よって挑戦意欲が高まり、自分らしさが発揮できるようになる。（非認知能力の高まり）
- ・学年内外問わず、自分の思いや考えを伝える場の設定や、テーマに応じて感じたことや思うことを交流する中で、違いを知り認め合う機会をもつことで、自己開示することの抵抗感が減り、コミュニケーション能力が身に付く。

【9 具体的な取組内容の修正】

1 単元指導計画に基づいた単元を通して身に付ける力やパフォーマンス課題等の明示

単元導入時に学習後のゴールをイメージさせ、**興味関心を高め**、目的と意思を持って学ばせる。毎時間の学習内容は教師から提示しつつ、毎時間生徒個々が「学びの目標」を設定し、**意思決定と学習意欲の向上を図る**。また、1時間の学びについて文字言語で書いて振り返り、**また適宜それを共有することによって、自身の学習を見つめる機会を確保する**。そのことで学習の手応えを感じたり、復習の必要性を感じたりと**学習への自己調整力を高める**。

2 学び方の工夫

教科の特性や単元の学習内容に応じて、**興味関心を高める単元導入を工夫**し、一斉指導での学び、協働的な学び（ペアやグループ学習等）、個別最適な学び（自由進度学習等）に取り組み、**生徒自身が学び取る意識を醸成する**。**協働的な学びについては、不安感を持たずに取り組めたり、ペアやグループ作りを工夫するなど、新鮮さや意欲喚起、発話したりする環境設定を大切にする**。

3 スキルアップの機会設定

（1）TALK Time（対人スキル向上）

身近なテーマや社会的な話題等について、考えを交流するやりとりを楽しんだり、自分の考えや感じたことを言葉に出したり、他者の考えや感じ方を受け止めて反応したりする中で、コミュニケーション能力を育成する。

⇒1学期期末テスト前には全校を縦割りグループにして実施し、おすすめのテスト勉強法をテーマに、1年生が学べる機会となった。2、3学期にも計画的に縦割りグループを活用し、様々な人とコミュニケーションをとれる機会とする。

⇒話すだけでなく、グループで一つの意見を作る合意形成のパターンも取り入れ、話し合いが深まっていくような仕掛けをしていく。

（2）SKILL Time（認知機能強化）

言語情報や視覚的情報等をもとにクイズ形式等の問題を解くことで、論理的思考力や情報処理能力、想像力、記憶力、判断力等を育成する。

（3）週末課題「オピニオンレポート」（思いや考えの言語化）

新聞の投書を読んで感じたことや自分の意見を文章で表現させることで、多くの考え方に触れ、そこから自分自身を見つめたり、新たな考え方を取り込んだりする機会を確保する。

⇒他者の意見を踏まえて、自分の意見を分かりやすく言語化する力を付けるため、良いオピニオンを共有して学び合う機会を作る。

（4）全校での取組充実

生徒会活動の中で、全校生徒が交流する機会（ブロック給食など）を工夫して設定し、さまざまな目的を通して、会話したり、協力したり、時に対戦したりして、限定的でない即興的なかわりを楽しみ、その中で自分らしさを発揮できるような生徒を増やす。

4 学院アンケートの活用

学院として学期に1回アンケートを実施し、1～3の実践が生徒の認知能力、非認知能力の向上に変化をもたらしているのか、主体性・挑戦意欲の向上につながっているのかを検証する。

⇒**学びのパスポートと同じレーダーチャートが作れるデータを、小中学校で作成・共有している**ので、**非認知能力面と学習方法の変容を継続して分析していく**。

5 校内研修の充実

個別最適な学びや協働的な学びの実践例や理論の研修、そして個人の学びにつなげるための授業改善に向けた研究を行う。また、学力調査や学院アンケートの結果について分析し、課題解決に向けたアプローチを検証する。

【10 生徒の変容（普段の様子から）】

- 1 学習内容を踏まえて自身の1時間の目標を立てるにあたり、より具体的な言葉で記述し見通しを持って学習に向かうことができるようになってきている。また、振り返りについても、理解できたことや、課題点などを言語化し、次の学習への見通しを持ったり、家庭学習をどう取り組むかを書いたりと自己調整面についても成長が感じられる。
- 2 学力調査の結果分析を踏まえて把握した、認知能力と非認知能力における一人一人の特徴や課題を踏まえて、学習や委員会活動等の学校生活全般における個に応じた指導や支援を行うことで、自信を持って物事に取り組む姿勢が高まった生徒や、できることが着実に増えてきた生徒もいる。
- 2 協働的な学びを通して、学習に対する認識や姿勢が前向きになり、クラス全体の雰囲気も活発になってきている。個別的な学びについても、ペアやグループでの学習の前に設定することで、集中力が増し、自分で理解し学び取ろうという姿勢が見られるようになってきている。学校全体として、活発にそして楽しみながら学習や様々な取組に向かえるようになってきた。
- 3 金曜日の隔週の TALK Time と SKILL Time においては、それぞれのねらいにそって1年通して取り組んできた結果、「授業のグループ学習で話を進める力が付いた。」「物事を色々な方向から見て頭を使えるようになった。」などの感想があり、自身のスキルアップにつながっていると実感する生徒も増えてきた。授業では学習内容の理解に時間を要する生徒も、うまく話し合いをまとめたり、解答に速くたどり着いて周りをサポートしたりと、この時間に力を発揮することがある。この時間を楽しめるクラスの雰囲気の良さや一人一人の目的意識も高まってきている。
- 4 認知能力（学力ステップ）については、基礎基本の力は付いているものの、昨年度からの伸びや変容がどの学年も見られない。非認知能力面についても、学院アンケートで学期ごとの変容を見取れるシステムを作ったが、個々の伸びや変化はあるものの、全体としての特徴的な伸びや変化はまだ見られない。集団としての伸びとともに、個の伸びや変化を今後も見取っていく必要がある。特に、授業に取り組む意欲の高さ、学習に向かう雰囲気の良さ、定期テスト等への取り組み方において、上昇傾向にある新3年生の今後の変容を追っていくことと、小学生の頃からの大きな成長を感じる新2年生の1名が教員の見取りとデータとの両輪でどのような変容を見出せるかを継続して研究していきたい。

【11 3年次の研究構想】

◎テーマ「主体性・挑戦意欲の高まる指導～自分で考え、決定し行動する生徒の育成～」

1 学年の実態を踏まえた授業改善・指導の工夫

○興味・関心を引き出す**導入の工夫**

○単元学習全体の**見通しを生徒と共有**

○個別最適な学びと協働的な学びをねらいにそって取り入れ、生徒が**自己決定し学習に臨む環境設定**
(学習を生徒に委ねる場面・時間の設定)

○生徒の自己調整力をより高めるための学習の**振り返りの価値付け**

2 個別の指導・支援の継続

○学習場面、委員会活動等の生活場面における**個に応じた声かけやサポートの継続**

○付けたい力を自ら考えて取り組んだり、振り返りを大切にして次の目標に向けて自己調整する力を付けさせたりと、**生徒が自ら考え行動につなげられるような特別活動のあり方、生徒会活動のあり方**を教職員で考え、進めていく。

3 アウトプットの重視と共有

○TALK/SKILL Time の継続

- ・小グループ、クラス、学年を越えたグループ等、**意図のあるグルーピングとテーマ設定**
- ・自分のものの見方・考え方を認識できるような課題設定

○週末課題「オピニオンレポート」の継続

- ・思いや意見を言語化して伝える力を身に付け、**他者の意見や表現の仕方から学べる機会の設定**

4 キャリア教育の視点を踏まえた教育活動

○特別活動等、学校行事や取組における、**付けたい力(非認知能力)の生徒との共有**

○卒業後の姿、将来像を見通して、**自分自身の物事への取り組み方を考える視点や機会の設定**

5 学院アンケートの活用

○令和6年度に引き続き継続して実施

6 計画的な校内研修

○**学年の実態、教科の特性に応じた、個別最適な学びや協働的な学びの実践例の情報共有、そして認知能力(学力)の伸びにつなげるための授業改善**に向けた研究を行う。